

佐久の美笹地上局 4月運用スタート

JAXA

宇宙航空研究開発機構(JAXA)が佐久市前山に建設していた美笹深宇宙探査用地上の運用が4月1日に始まる。建設から30年以上たち老朽化していた白田宇宙空間観測所(佐久市上小田切)のパラボラアンテナの後継機。今後の深宇宙探査で重要な役割を担うことになる新たなアンテナに、関係者が期待を寄せている。

地上局は佐久市・茅野市境の大河原峠に至る「蓼科スカイライン」沿いにあり、約8畝の土地に直径54メートルの新アンテナと電力棟など2棟が立つ。アンテナは筑波宇宙センター(茨城県つくば市)から遠隔操作し、白田観測所が管理をするという。

1日以降、昨年12月に小惑星の岩石試料入りカプセルを地球に投下し現在のは別の小惑



4月1日に運用が始まる美笹深宇宙探査用地地上局
25日、佐久市前山

星へ向かっている「はやぶさ2」との交信を白田観測所のXAの水素探査機「みお」にも関わり、25年を予定する水星への到着後、大気などの調査で交信を担う。白田観測所のアンテナは新アンテナの予備などに使われ、23年度まで運用を続ける。

美笹地上局のアンテナは国内の深宇宙探査用として初めて、高周波の電波「ka帯」の受信に対応。探査機からこれまでの2倍の情報を受け取ることができる。同地上局のプロジェクトマネージャ沼田健二さんは「日本の深宇宙探査の飛躍につながることを期待したい」としている。

危険なバス停、全国1万カ所 国交省調査、県内は280カ所

信号機のない横断歩道に近いなど、交通事故の危険性が高いバス停は全国に1万195カ所あることが、25日までの国土交通省の調査で分かった。バス事業者や警察が停留所の移設や廃止、信号機設置といった対策を進めるが、移設や廃止は地元の調整

が難航するケースも多く、安全確保には時間がかかりそう。調査は2019年末から、約40万カ所の全バス停で実施。地方運輸局が各地域の結果を順次公表し、3月で完了した。

3段階のうち危険度が最も

高いAランクは1615カ所だった。信号機のない横断歩道に近く、バス停車時に車体の一部が横断歩道にかかるか、過去3年以内に人身事故が発生したケースだ。

信号機のない横断歩道の前後5メートル範囲にバスの車体がかかるなど、Bランクは5660カ所。Cランクは2920カ所だった。いずれのランクも交通量、バスの便数は考慮していない。

都道府県別でA-Cランク

の総数が最も多かったのは静岡県で883カ所。埼玉、神奈川県、愛知、京都なども400カ所以上あった。府県内にあるバス停の総数が多いことが影響した。長野は280カ所。少なかったのは、香川1カ所、群馬7カ所などで、安全対策が進んだという。

危険なバス停は、降車して横断歩道を渡る人がいても、対向車線のドライバーにはバスの車体で死角となりやすい。

先生方は生

長崎・海星高
在校生らが

2017年に長崎市の種子生徒(当時16)が参加する有...
はじめが自死の主たる...
委員会の報告書を受け...
外的に説明するよう...
学校側に郵送した。在...
メッセージを同封し...
や人権を本気で守つて...
と問い掛けた。
メッセージは右

信大病院

県立こども病院

アレルギー「拠点病院」に

県は25日、重症や難治性、診断が困難なアレルギー患者の治療を担うなど、県内のアレルギー疾患医療の中心となる「アレルギー疾患医療拠点病院」に、信州大病院(松本市)と県立こども病院(安曇野市)の2病院を指定すると発表した。4月1日付で、県内の指定は初めて。

地域のかかりつけ医などと連携し、標準的な治療では症状がなかなか安定しないアレルギー疾患に関する情報の共有、疾患に関する情報の共有、換を2病院で中心に進め、内全体のアレルギー疾患の底上げを図る。

県は25日、重症や難治性、診断が困難なアレルギー患者の治療を担うなど、県内のアレルギー疾患医療の中心となる「アレルギー疾患医療拠点病院」に、信州大病院(松本市)と県立こども病院(安曇野市)の2病院を指定すると発表した。4月1日付で、県内の指定は初めて。

発熱など有症状者
各保健所の受診・相談センター
(24時間対応)
※身近な医療機関に相談できない時に利用

佐久	0267-63-3178
上田	0268-25-7178
諏訪	0266-57-2930
伊那	0265-76-6822
飯田	0265-53-0435
木曾	0264-25-2227
松本	0263-40-1939
大町	0261-23-6560
長野	026-225-9305
北信	0269-67-0249